

令和4年度 川崎市立小学校体育研究会 研究基本構想

川崎市立小学校体育研究会 研究部

1. 研究の基本的な考え方について

本年度の研究会テーマ

「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」
～主体的・対話的で深い学びを通して、資質・能力を育成する授業づくり～

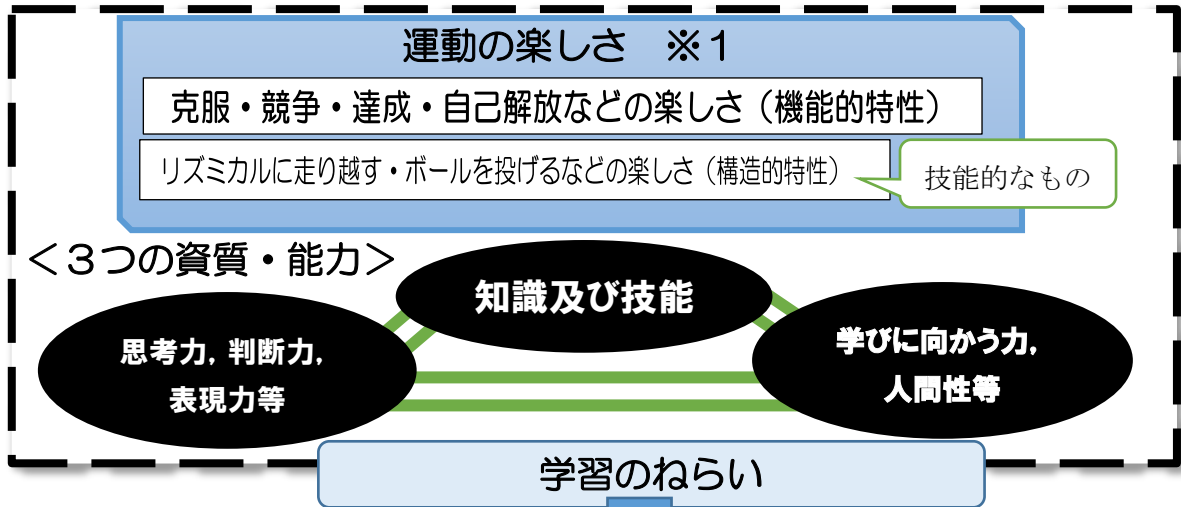
昨年度から全面実施となった学習指導要領では、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』を育成することが目標として示されている。

そこで川崎市立小学校体育研究会では、学習指導要領の内容と小学校体育研究会で長年大事にしてきためあて学習を踏まえ、「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」を研究テーマとして設定し、子供たちが自分のめあてをもち、課題を解決することで、めあてを達成して、学習指導要領に示された3つの資質・能力を育んだり運動の楽しさを味わったりできる体育学習を目指していくこととした。そのために、学習指導要領に示される指導内容（3つの資質・能力）を把握し、一人一人がめあてをもち、自らの課題を解決することで、めあてを達成できる指導方法のプランを立て、子供たちに資質・能力が身に付くように、その学びの姿を明らかにし、運動の楽しさを味わえる体育学習のあり方を探っていく。また、めあて学習の充実を図ることは、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりにつながると考える。そして、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行うことは、めあて学習の充実につながると考える。

研究構想図

めざすもの

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現

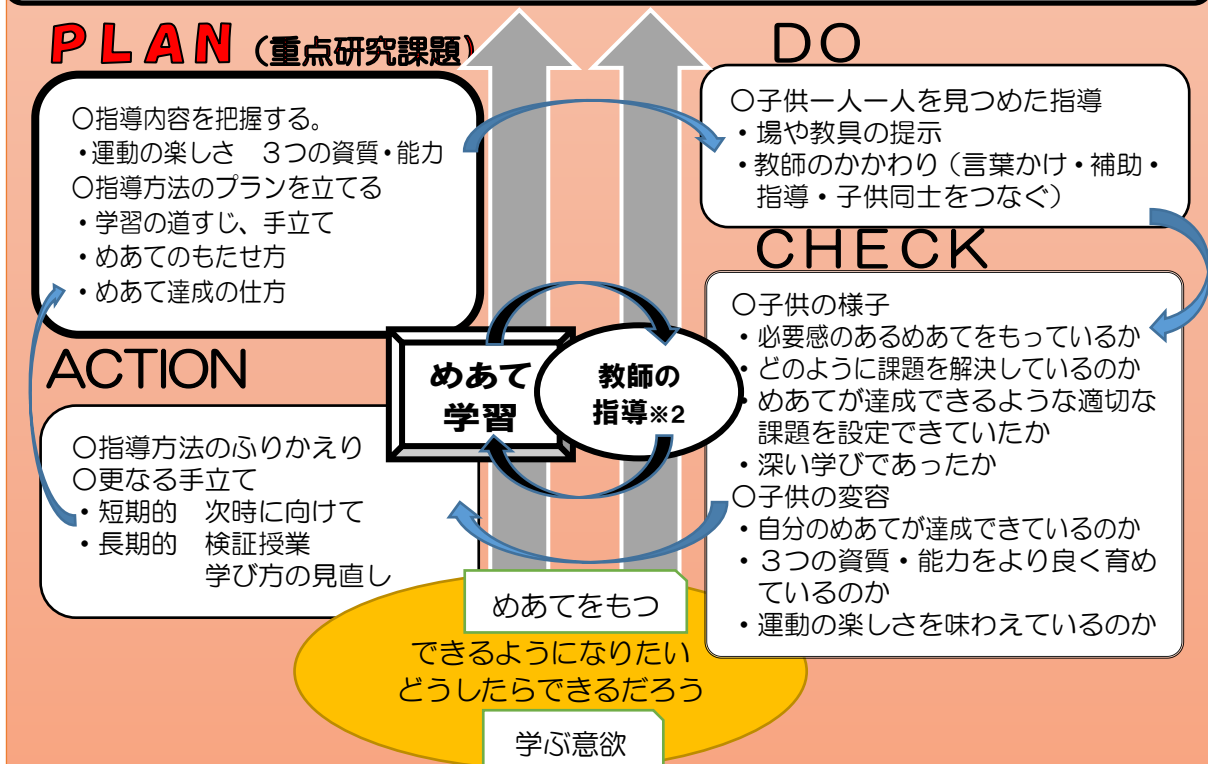


体育研究会テーマ

「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」
～主体的・対話的で深い学びを通して、資質・能力を育成する授業づくり～

めざす子供の姿

自分のめあてを達成しながら、運動の楽しさを味わう子



※1 運動の楽しさ：克服・競争・達成・自己解放などの機能的特性とリズムカルに走り越す・ボールを投げるなどの構造的特性を運動の楽しさと捉える。

※2 教師の指導：指導内容を明らかにすること（どんな楽しさを求めるのか、どんな資質・能力を育むのかを考える。）や指導方法のプランを立てること（学習の道すじや手立て、めあて達成の仕方を考える。）

2. めあて学習について

めあて

体育学習における、挑戦・克服・達成すべき動きや記録・ルール（規則）の工夫・進んで行く態度などの運動の楽しさ・楽しみ方の方向性、学習指導要領に示されている3つの資質・能力を具体化したものが「学習のねらい」である。そして、「学習のねらい」を学級全体としての目標とし、それを達成するために、個人またはグループ（チーム）が、それぞれの力に応じて、自らの意志で設定したより具体化した目標を「めあて」として考える。

めあて学習

教師の指導や友達との関わりなどにより、子供たち一人一人、または各グループ（チーム）が、自らの意志で設定した「めあて」をもち、そのめあてを達成するために課題を見付け、その課題を解決して、自らのめあてを達成する学習だと考える。また、主体的・対話的で深い学びを意識して取り組むことが、めあて学習の充実につながり、運動の楽しさを味わうことになる。と考える。

※教師の指導：言葉かけ、場・教具の提示、見守りなど、学習のねらいにせまるために行う、全ての手立て

めあて学習構想図

…子供に提示する「めあて」（めあて、課題、課題解決方法）

高学年 跳び箱運動 単元後半の例

主

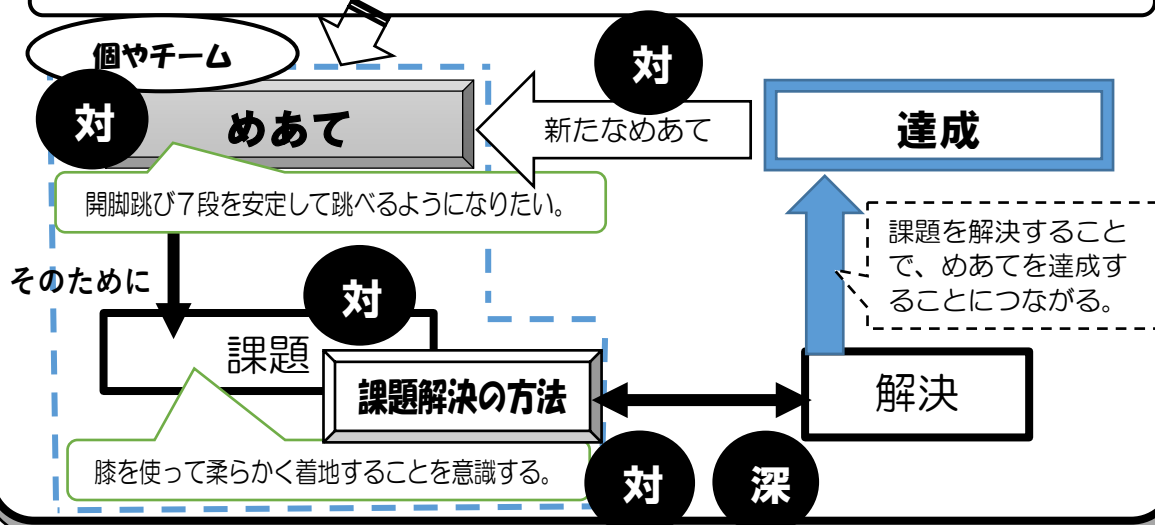
単元のねらい

- 〈知識及び技能〉 繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。
- 〈思考力、判断力、表現力等〉 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- 〈学びに向かう力、人間性等〉 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

めあて学習

本時のねらい

自分の力に合った技や学習の場を選び、繰り返し系や回転系の基本的な技を安定してできたり、その発展技ができたりする。



教師の手立て

3. 重点研究課題

(1) 重点研究課題

【今年度の重点研究課題】

一人一人が自分のめあてを達成し、運動の楽しさを味わう指導の在り方を検証する。

全ての子供たちが運動の楽しさを味わうためには、「めあて学習」が必要だと考える。今年度の研究の柱としては、その運動の楽しさを踏まえ、どのように学んでいくのかを明らかにし、めあて学習のよりよい授業づくりを探っていくことである。

- ① 学習指導要領に示されている運動の指導内容（3つの資質・能力）を把握し、子供が自分のめあてや課題を見付け、課題を解決することでめあてを達成し、運動の楽しさを味わうことのできるプランを立てること。
その際に、主体的・対話的で深い学びを意識すること。
 - ② めあて達成に向けた指導方法のプランに沿って、指導すること。
 - ③ めあてを達成していたかどうかを確認すること。
その際に、深い学びが実現できたか、3つの資質・能力を育成できたか、運動の楽しさを味わわせることができていたかという視点で振り返ること。
 - ④ 指導方法を振り返り、更なる手立てを考えること。検証授業を行うこと。
- ①～④を通して、一人一人が自分のめあてを達成し、運動の楽しさを味わうことのできる指導の在り方を検証していきたい。

(2) 重点研究課題にせまるために

運動の楽しさを味わうために

運動の楽しさ

克服・競走（争）・記録達成・自己解放など

今年度の重点

①一人一人が自分のめあてを達成し、運動の楽しさを味わえるプランを立てる。

- ・学習指導要領の指導内容を把握し、単元を通してどのような資質・能力を育成していくことが必要なのか、どのような運動の楽しさを味わうことが必要なのかを明らかにする。
- ・めざす子供の姿を明らかにする。
- ・学習の道すじ、手立てを考える。
- ・単元のどの場面でのどのようなめあてや課題をもち、どのように課題を解決して、めあて達成をしていくのかを考える。

② 指導方法のプランに沿って、指導する。

- ・めあてを達成するための指導⇒場や教具の提示（一人一人がめあてを達成できる）
教師の関わり（言葉かけ・補助・指導・子供同士をつなぐ）

③ めあてを達成し、運動の楽しさを味わっていたのかを確認する。

子供の様子

- ・必要感のあるめあてをもっているか。
- ・どのように課題を解決しているのか。
- ・めあてが達成できるような適切な課題を設定できていたか。
- ・深い学びであったか。⇒深い学びの姿を探っていく。

○子供の変容

- ・自分のめあてが達成できているのか。
- ・3つの資質・能力をより良く育てているのか。
- ・運動の楽しさを味わえているのか。

子供の姿から

PLAN⇒DO が妥当だったのか、どのように取り組んでいたのか、めあては達成できていたのか、細かな見取りを行う。

④ 指導方法を振り返り、更なる手立てを考える。

- ・PLAN が有効であったのかを振り返り、見直す。
- ・教師の指導を見直す（短期的・長期的な見直し）
- ・どのように学んでいくことがよいのかを見直す。

更なるPLAN⇒DOへ！

主体的・対話的で深い学びを通して、めあてを達成し、運動の楽しさを味わうことができていたのかを振り返る。どのように学んでいくことがよいのかを探り、PLAN⇒DOにつなげていく。